

## 取組と目標に対する自己評価シート（フェイスシート）

### タイトル **生き生きと支え合って暮らせる地域づくりの推進**

#### 現状と課題

伊達市ニーズ調査では、ご近所の支えあい、助け合いでできると思う支援として、「見守り・声かけ」「除雪」「おかずのおすそ分け」と答えた人が約 65%いた。

また、今後の生活の場所について「現在の住宅に住み続けたい」が 68.1%、病院での生活・終末期を希望する理由は「介護力の不足」が 52.8%と最も高い結果であった。

今後さらなる少子高齢化に伴い支える側が減少するため、介護保険サービス等の公的サービスに加えて、住民同士の支え合い・助け合いといった互助も重要となる。そのため、地域との話し合いの場を設ける等取り組みを進めるとともに、できる限り高齢者が住み慣れた地域で暮らしていけるよう、サービスの充実と地域の担い手や人材の確保など支援体制等の充実が必要となる。

#### 第 8 期における具体的な取組

- ・ 日常生活の支援体制整備

#### 目標（事業内容、指標等）

##### ○生活支援体制整備事業

生活支援コーディネーター活動支援、第 1 層協議体及び支え愛★地域づくり座談会（2 層協議体）の開催により住民の社会参加や地域の実情に応じた支え合いである、互助の仕組みづくりを推進する。

- ・ 支え愛★地域づくり座談会

開催地区数 令和 3 年度：4 カ所 令和 4 年度：4 カ所 令和 5 年度：4 カ所

開催数 令和 3 年度：8 回 令和 4 年度：8 回 令和 5 年度：8 回

#### 目標の評価方法

##### ● 時点

中間見直しあり

実績評価のみ

##### ● 評価の方法

- ・ 支え愛★地域づくり座談会の開催地区数及び座談会開催数を計上

## 取組と目標に対する自己評価シート

年度	令和4(2022)年度
----	-------------

### 実施内容

「支え合いボランティア」モデル事業の実施  
住民同士の互助の仕組みづくりへのモデルケースとして、長和地区で7名のボランティアによる活動を行った。

### 自己評価結果【○】

座談会は開催しなかったが、今後地域での座談会に具体的に提示するための取組み例として、モデルケースに取り組んだ。担い手確保など今後の体制づくりの検討材料とすることができた。

### 課題と対応策

担い手の確保や地域住民への周知など課題が見えた。  
モデル事業の実践や振り返りをとおして、地域住民や関係機関との連携について検討し、事業の拡大に向け取り組む。